



東京五輪
豪・競泳チーム

総数20個
メダルラッシュ

長岡との交流、大きな励みに

7個のメダル獲得！ エマ選手が長岡に感謝

東京五輪では、私たち競泳チームへたくさんの応援をありがとうございました。子どもたちをはじめ市民のみなさんからの声援が力になりました！



女子50m・100mの自由形2冠を含む4つの金と3つの銅
エマ・マキーオン選手



ケイト・キャンベル選手(右)と健闘を称え合うエマ選手

オーストラリア競泳チームが、東京五輪で20個のメダルを獲得する大活躍を見せました。
市は平成29年から五輪に向け、ホストタウンとして豪・競泳チームを支援。事前合宿を通じ、公開練習や子どもたちへの水泳指導などで、選手と市民が友好な関係を築いてきました。
また、新型コロナウイルス禍でも、オンラインで児童が選手に応援する大活躍を見せました。

援の気持ちを伝えるなど、交流を続けてきました。
豪との交流
これからも
長岡のサポートやさまざまな取り組みはオーストラリアからも高く評価されています。今後も交流を続け、長岡のスポーツ振興や魅力発信などにつなげます。
囲スポーツ振興課
☎32・6117

トピックス

「共生の精神」聖火でつなぐ 東京2020パラ採火式

東京2020パラリンピック聖火の採火式を8月15日、馬高縄文館で行いました。採火台のモチーフは、障害のある人もない人も共に生活していたとされる縄文時代の象徴「火焰土器」。出土地での採火式には、高等総合支援学校出身のパラ陸上選手・松田将太郎さんやシドニー五輪銀メダリスト・中村真衣さんも参加しました。
縄文時代の「共生の精神」を宿した火を、東京へとつなぎました。



長岡まつり 想いと祈りをつなぐ

新型コロナウイルス感染対策を徹底し、8月1日から3日に開催した長岡まつり。大花火大会は2年連続の中止となったものの、例年とは形を変えて「慰霊・復興・平和」への想いをつなげました。
圏観光事業課 ☎39・2221、長岡花火財団 ☎39・0823



▲一斉に打ち上げた花火「慰霊・復興・平和への祈り」。左から三島、寺泊、長岡、中之島（8月3日）

みんなの空へ 11地域で打ち上げ

1日の信濃川河川敷（長岡地域）での慰霊の花火「白菊」のほか、2日・3日には長岡花火で初めて、市内11地域で市民のための花火を打ち上げました。



◀(左) 山古志・花火「新型コロナウイルスと戦うすべての人々への感謝とエール、コロナウイルス禍からの復興と早期終息を祈願する花火」、(右上) 川口・スターマイン「エール花火」、(右下) 栃尾・花火「慰霊・復興・平和への祈り」

若者が 魅力を発信

長岡花火をテーマに、スマートフォンで撮影した映像作品を公募した「スマホ映画祭」。感染症の影響を受ける中でも長岡を盛り上げようと、若者が企画しました。
圏ながおか・若者・しごと機構
☎86・6008



▶アオーレ長岡に設置した紹介ブース（8月2日・3日）



“センバツ” 民謡流し（8月1日）

アオーレに 活気満ちるに

1日に平和祭、2日・3日には昨年中止となった昼行事をアオーレ長岡で開催。事前申し込みで当選した来場者は、ステージイベントや縁日コーナーを楽しみました。



わんぱくおまつり広場（8月3日）